

明智光秀公ゆかりの地

びわ湖大津 の城跡

大津・幻の城ゆかりの地を歩く

- ◇明智光秀の幻の水城・坂本城
- ◇関ヶ原の勝敗を左右した・大津城
- ◇湖上に浮かんだ雄姿・膳所城



明智光秀像

坂本城址公園「明智光秀像」



西教寺総門

明智光秀とその一族の墓

大津の城跡

「戦国時代、覇権争いに揺れた幻の城跡を訪ねて大津へ」

琵琶湖と比良・比叡・長等など数多くの山並みに囲まれた大津は、戦国時代、京都と東国の中間に位置したことから、数多くの城が築造され、日本史の表舞台にも度々、登場。本能寺の変で織田信長を討った明智光秀の坂本城をはじめ、関ヶ原の戦いの前哨戦として有名な大津城など、天下統一の夢をかけた、ロマンあふれる舞台が、ここに。

「山城から平城へ、時代と共に変化した天下取りの拠点」

日本の城は、時代ごとの目的に応じ、場所や規模、形などが違う。例えば宇佐山城のように険しい山頂に造られた「山城」は、軍事基地的な意味合いが強く簡素で小規模なものが大半。その後、国取り合戦が激化しさらなる勢力拡大のため、城は防衛主体から領地を統治し、政治・経済の中枢を担う「平城」としてより交通の発達した平野部へと移っていく。大津城や膳所城などが、その典型と言える。

壱田城

信長軍の武将・坂井政尚が、朝倉・浅井軍と死闘を繰り広げた水城。

雄琴城

明智光秀に仕え軍功をあげた和田秀純が天文七年に築城。

壺笠山城

志賀の陣で朝倉・浅井連合軍が立て籠り信長軍と戦った山頂の城郭。

宇佐山城

京都へ通じる2大幹線を封鎖しその間に築いた森可成の居城。

坂本城

明智光秀が信長の命を受けて築いた、豪壮華麗な名城。

大津城

関ヶ原での東軍勝利に貢献した京極高次の籠城戦で有名な水城。

膳所城

築城の名手と名高い藤堂高虎が縄張りを担当した、湖上の浮城。

石山城

石山寺の裏山の山岡氏の砦。元亀四年に足利軍と織田軍が戦う。

瀬田城

本能寺の変後、城主山岡景隆が瀬田橋を焼き落として光秀と対戦。

田上城

甲賀郡の土豪多羅尾氏がこの地に築いた城。別名多羅尾城とも。

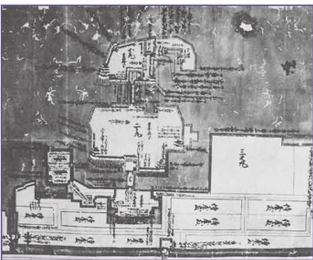


膳所城

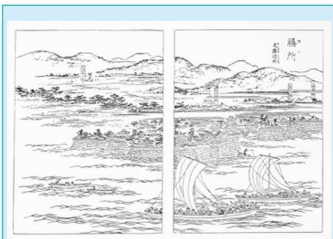
築城の名手、藤堂高虎が築いた湖上の浮城

「湖上に映える雄姿は日本随一の美しさと伝わる」

徳川家康は関ヶ原の合戦後、軍事的に不利な大津城を廃城にし、翌年、やや東南の湖岸に膳所城を築城。「天下普請」第一号の城となる。縄張（築城設計）は築城の名手・今治城主の藤堂高虎が担当。湖中に石垣を築き、本丸と二の丸を配置し、両者は廊下橋でつながれ、二の丸の北には北の丸、南には「字型」の帯曲輪が付く特異なかたちをした。さらに本丸には四層



■寛文大地震の被害状況を記した膳所城絵図
膳所城修復願ヶ所絵図(滋賀県立図書館蔵) ※
寛文二年の大地震は現高島町を震源とするもので、マグニチュード7.6。膳所城もかなりの被害を受け、この時の改築で藤堂高虎の縄張りも、堀を埋めるなど、相当に変更、改築された。



●「近江名所図会」に描かれた膳所城 ※
膳所城は湖上に浮かぶその優美な姿から、東海道を往來する人々の評判となり、近江八景や浮世絵などに盛んに描かれた。「瀬田の橋樑、唐土殿宝珠、水に映るは膳所の城」と歌にもなる。



●膳所城公園と城下の街並み
明治維新の廃城によって膳所城は失われてしまったが、市内には城と城下町の遺構が数多く残り、当時の様子を偲ばせる。



●藤津神社
表門は膳所城の北大手門を移築。

「名城の証である別名「石鹿城」その由来はこんな奇策にあり」

古来名城には別名が付けられ、膳所城もまた「石鹿城」と呼ばれていた。その由来は、第一〇代藩主・本多康慶の時代に遡る。膳所城中大手門の構造が、幕府の規定に違反しているとの密告があり、役人が調査にやつてくることとなった。そこで膳所藩は、瀬田口総門から中大手門へと通じる道に犬の血を塗って、むしろを被せた大石を置き、これは今朝しとめた鹿で、血で汚れているからと別の道を通らせることに成功。その策が功を奏して、幕府からのお咎めはなく、以来、膳所城は「石鹿城」と呼ばれるようになった。

「市中に残る数多くの遺構や城下町の面影が、当物を物語る」

現在、膳所城の本丸跡は公園として整備され入口には復元された城門と城壁、天守閣跡には石碑がたち、石垣及び堀の一部が遺構として残っている。当時の建造物は明治時代にすべて取り壊されたが、膳所神社、藤津神社に移築された城門が、いずれも重要文化財になっているほか、蔵や二重櫓なども市内に残っている。ぜひ併せて巡りたい。

膳所城ゆかりの地を訪ねる

緑心寺(さんしんじ)

膳所城の初代藩主・戸田一西が慶長七年に創建した膳所藩主の菩提寺で、境内には石の玉垣に囲まれた五輪塔型の本多家歴代墓などが並び、また戸田一西の木像をはじめ、膳所藩に関する資料なども多く保管されている。

※京阪・膳所駅下車
徒歩5分
※津野駅下車
徒歩15分

膳所神社(せせんじんじ)

膳所城本丸跡地の近くにある神社。中世には武士の崇敬が篤く、社伝には豊臣秀吉や秀吉夫人の北政所、徳川家康などが神器を奉納したという記録が残る。表門は明治二年、廃城となった膳所城から移築されたもの。

※京阪・膳所本町駅下車
徒歩1分
077-5522
1167



芭蕉会館(はしやうかいかん)

昭和39年、芭蕉が70年忌記念事業として、茶臼山中腹に建設。前庭からは芭蕉が生涯愛した湖南の風景が一望、膳所城本丸東正面の二重櫓を移築改造したもの。

※JR・石山駅よりバス(粟津)下車、徒歩5分



※ふるさと大津歴史文庫2 大津の城 平成5年 五版(発行:大津市)より転載(協力:大津市歴史博物館)

大津城

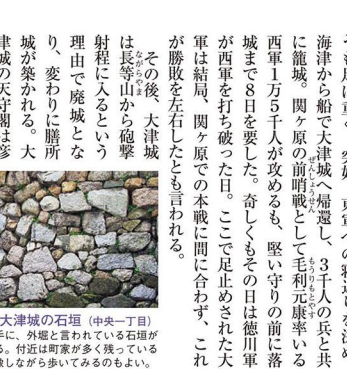
関ヶ原の勝敗を左右した
と言われる大津城の攻防。

「関ヶ原へ向う毛利軍を足止め、京極高次、決死の籠城」

本能寺の変から四年後の天正十四年ごろ、秀吉は坂本城を廃城にし、大津に城を移す。大津に大津百艘船仲間を作らせ、琵琶湖水運の要衝として、新たな戦略的拠点を築く。初代城主は浅野長吉(のち長政)。その後、数名の城主を経て、文禄四年、京極高次が近江八幡城から、移り、六万石で城主となる。その後、関ヶ原の戦いが勃発。高次は妻のお初が浅井長政の次女であったことから

(長政の長女・茶々は秀吉の側室、三女のお江は徳川秀忠の妻)、難しい立場に立たされる。ひとまず三成側の西軍に属し、北陸討伐へ向かうも足は重く、突如、東軍への寝返りを決め、海軍から船で大津城へ帰還し、3千人の兵と共に龍ヶ崎、関ヶ原の前哨戦として毛利元康率いる西軍1万5千人が攻めると、堅い守りの前に落城まで8日を要した。奇しくもその日は徳川軍が結句、関ヶ原での本戦に間に合わず、これが勝敗を左右したとも言われる。

その後、大津城は長等山から砲撃射撃に入るといふ理由で廃城となり、変わりに膳所城が築かれる。大津城の天守閣は彦根城に移築され、城門等は膳所城に多く移築された。



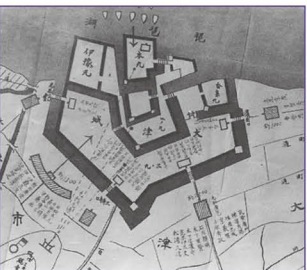
天正十五年、豊臣秀吉は水陸交通の要衝で京への東安閥となる大津の港にいち早く着目。水運の発展と軍事利用を目的に、湖上での特權と保護を条件に、浅野長政は船を集めて「大津百艘船」を組織し、船奉行を設置して琵琶湖の水運をその支配下に治める。輸送には丸舟船と呼ばれる琵琶湖特有の和船が使われ、最盛期の江戸中期には、約1300艘もの船が運行していたと記録される。こうして大津は琵琶湖の物資が集散する港町として、また東海道の宿場町として、発展していくことになる。

「琵琶湖の水運を握った「大津百艘船」」

丸舟船
琵琶湖に蒸気船が登場するまでは、湖上交通には板を太独り立てで並べ、側面には丸型付けた大独り立てを取り付けた大独り船の構造。(復元模型・大津市歴史博物館蔵)



大津城データ / 天正十四年(1586)～慶長五年(1600)
城主 / 浅野長政、増田長盛、新庄重直、京極高次



大津籠城の合戦図(『郷土戦史』より) ※
京極高次は籠城の際に、大津城下をおよそ14時間かけて焼き払っている。これにより大津城下は荒野となり、瀬田近辺から三井寺のあたりまで、田畑もすべて刈り取られたと言われる。



彦根城
姫城などとは並び、天下の名城の一つに数えられる彦根城は、井伊直直と直幸によって約20年の歳月をかけて建設され、元和8年に完成。大津城や長浜城など、いくつもの城の城門や石垣などが使われている。琵琶湖八景の一つで、天守は国宝。
JR「彦根駅」下車、徒歩15分



丸舟船
琵琶湖に蒸気船が登場するまでは、湖上交通には板を太独り立てで並べ、側面には丸型付けた大独り船の構造。(復元模型・大津市歴史博物館蔵)

大津城ゆかりの地を訪ねる

大津別院(おまつべいん)

真宗大谷派(東本願寺)の別院。信長に敵対した本願寺の教団が創建。徳川家康が上洛の時に与る居館だった。本堂は、外陣が広くこの典型的な真宗寺院で、書院とともに桃山建築の様式が見て取れる。また書院の天井には金地・濃彩の円形草花図が描かれるなど華々しく、見る者を圧倒する。
JR「大津」下車、徒歩10分
077-521-2100(大津市歴史博物館)



大津市歴史博物館

三井寺の北側に位置し、大津の文化財や資料を集め、公開している。復元模型やイラスト、映像などを使って、大人から子供まで楽しみな大津の歴史が学べる。大津百艘船のコーナーでは、江戸時代の町民の生活が復元模型で親しまえる。他にも膳所城下町の復元模型や絵図、坂本城の出土品、光秀の書状などの展示もある。
JR「大津」下車、徒歩15分
077-521-2100(大津市歴史博物館)
3/20(日) 月曜休館

和田神社(わだじんじゃ)

本殿は鎌倉時代の建築で、国の重要文化財に指定されている。表門は膳所藩の藩校「遊芸塾」の門を移築した。また、境内にある熊香の大木は樹齢6000~6500年といわれ、関ヶ原の戦いで敗れた石田三成が京へ護送される中、つながられたといふ伝説が残っている。
JR「大津」下車、徒歩10分
077-521-2107



坂本城

悲劇の武將、明智光秀と
湖に沈む幻の城を訪ねる。

「運命を共にした琵琶湖の水城」

元龜二年、織田信長は比叡山焼き討ち後、明智光秀に滋賀郡を与え、坂本城を築かせた。明智光秀といえは本能寺の変において、主君信長を討った謀反人「三日天下」の印象が強いが、和歌や茶の湯をよくし、臣下領民に厚く自らも鉄砲の名手という文武両道の人である。その一方で、仕えた主君、朝倉義景、足利義昭、織田信長の間で苦悩し、奔走し、嘆願し、常に優れた功績を残しながらも報われない無念の人でもあった。天正十年、本能寺の変の後、山崎の戦いで敗れた光秀は坂本へと落ち延びる途上、落ち武者狩りの手にかかり自刃。その後、娘婿であ

り重臣の秀満が坂本城に籠もるも、秀吉の大軍に包囲され、自ら城に火を放ち光秀の妻子とともに自害、坂本城は落城したと言われる。後に丹羽長秀が焼けた城を再建するものの、天正十四年、大津城の築城に伴い、廃城となった。



●明智光秀一族の墓
西敷寺境内には光秀一族の墓がある。鐘塚の鐘は、坂本城の陣鐘で光秀が寄進したもの。



坂本城データ・元龜二年(1571)～天正十四年(1586)
城主・明智光秀、丹羽長秀、杉原家次、淺野長政

■湖中に残る坂本城の石垣(昭和59年7月撮影)※坂本城は著名な城でありながら、現存する遺構がほとんどなく、今や幻の城である。琵琶湖滞水時にその面影を折映かせるのみ。



■坂本城の縄張り復元図(『新修大津市史』第7巻より)※坂本城は内堀と湖に囲まれた水城であった。もし現存していたれば、姫路城や彦根城と並び賞される美しい城であったに違いない。

「安土城と並び賞された近世城郭の先駆、坂本城」

信長より延暦寺の監視と滋賀郡一帯の支配を任された明智光秀は、坂本(下坂本)の琵琶湖畔に当時としては随一の規模を誇る坂本城を築城。その構造は大守と小天守を持ち、城内に琵琶湖の水を引き入れた水城で、当時、宣教師として来日していたルイス・フロイスはその著書「日本史」の中で、坂本城は信長の安土城に次ぎ、第二の名城だと讃えている。現在ではその遺構の大半は水中に没しているが、琵琶湖の滞水期に水位が下ると、湖面から石垣が現れ、当時の面影を偲ばせる。



●坂本城の碑
坂本城の本丸跡とこの城の明瞭な方角を示す鐘塚の鐘は、坂本城の陣鐘で光秀が寄進したもの。
●坂本城の碑
坂本城の本丸跡とこの城の明瞭な方角を示す鐘塚の鐘は、坂本城の陣鐘で光秀が寄進したもの。

「明智左馬助の湖水渡り」伝説

山崎の合戦で光秀の討死を知った重臣の秀満は、救援に向かっていた京から進路を坂本城に変更。粟津から大津に向かう途中、秀吉方の軍勢に道を塞がれ、仕方なく琵琶湖へと馬を乗り入れた。これを見た敵軍はそのうち溺れるだろうと笑ったが、秀満は琵琶湖の遠泳をよく知り、簡単に唐崎へ到着、柳が崎付近とも。その後、この馬は無双の駿馬として、秀吉が柴田勝家と戦った時で戦つた時に辱と名付けられ、美濃の大垣より二十里余りの悪路を走駆したと伝わる。



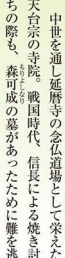
●坂本城址公園
国道161号線沿いに整備された公園で、広場の一角には明智光秀の像が建つ。坂本城が実際にあった場所は、公園のさらに北側だと伝わる。
京阪「松ノ馬場駅」下車、徒歩25分

坂本城ゆかりの地を訪ねる

聖徳太子が創建した天台真盛宗の総本山で、明智一族の菩提寺としても知られる。信長の比叡山焼き討ちにより、寺も災禍を受けたが、光秀が大木坊を再建などに尽力。本堂は総ケヤキ造り。重文。また客殿は伏見城の遺構。狩野派による襷絵など見所も多い。
●J.R.比叡山坂本駅
または京阪「坂本比叡山口駅」よりバス「西敷寺」下車、徒歩10分
0775680003



中世を通し延暦寺の念仏道場として栄えた天台宗の寺院。戦国時代、信長による焼き討ちの際も、森可成の墓があったために難を逃れる。国宝・重要文化財も多く比叡山の正倉院とも呼ばれている。表門には坂本城の城門が移築され、当時を伺い知ることができ。
●R.比叡山坂本駅
下車、徒歩15分
0775680002
比叡山(徒歩10分)



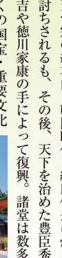
平成6年に世界文化遺産にも登録された、天台宗の総本山。戦国時代、織田信長に焼き討ちされるも、その後、天下を治めた豊臣秀吉や徳川家康の手によって復興。諸堂は数多く指定を受け、宝物類も見応え十分。杉木立の中、厳肅な空気が漂う。
●京阪「比叡山坂本駅」下車、徒歩10分
0775680001



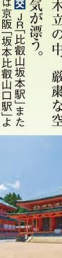
平成6年に世界文化遺産にも登録された、天台宗の総本山。戦国時代、織田信長に焼き討ちされるも、その後、天下を治めた豊臣秀吉や徳川家康の手によって復興。諸堂は数多く指定を受け、宝物類も見応え十分。杉木立の中、厳肅な空気が漂う。
●京阪「比叡山坂本駅」下車、徒歩10分
0775680001



平成6年に世界文化遺産にも登録された、天台宗の総本山。戦国時代、織田信長に焼き討ちされるも、その後、天下を治めた豊臣秀吉や徳川家康の手によって復興。諸堂は数多く指定を受け、宝物類も見応え十分。杉木立の中、厳肅な空気が漂う。
●京阪「比叡山坂本駅」下車、徒歩10分
0775680001



平成6年に世界文化遺産にも登録された、天台宗の総本山。戦国時代、織田信長に焼き討ちされるも、その後、天下を治めた豊臣秀吉や徳川家康の手によって復興。諸堂は数多く指定を受け、宝物類も見応え十分。杉木立の中、厳肅な空気が漂う。
●京阪「比叡山坂本駅」下車、徒歩10分
0775680001



平成6年に世界文化遺産にも登録された、天台宗の総本山。戦国時代、織田信長に焼き討ちされるも、その後、天下を治めた豊臣秀吉や徳川家康の手によって復興。諸堂は数多く指定を受け、宝物類も見応え十分。杉木立の中、厳肅な空気が漂う。
●京阪「比叡山坂本駅」下車、徒歩10分
0775680001

宇佐山城

「比叡山城き討ちの際、光秀が拠点とした城」

元亀元年四月、織田信長は越前朝倉義景を攻めたが、同盟者である浅井長政の離れにより失敗。休養を立て直すと、坂本城へ戻り、宇佐山城には、家臣の森可成（森蘭丸の父）を配し、朝倉・浅井軍に對する守りを固める。同年七月、三好三人衆の摂津進攻に對して信長も摂津へ出陣。その隙をき、連合軍は湖西を南下する。宇佐山城を守っていた森可成は、その進軍を止めるため出陣し、討ち取られてしまふ。それを知った信長は、連合軍に對し、連日軍と對峙し、年末に相撃する。翌年、明智光秀が宇佐山城に入り、比叡山城き討ちの活動を果たすなど、この活動の地元々を懐柔するな



山中に残る宇佐山城跡の石垣 ※

「眼下に望む山中越に、要衝の地であったことを実感」

宇佐山城の遺構は、標高336mの宇佐山頂にあり、放送局のアンテナが目印。近江神宮に隣接する宇佐八幡宮の参道から登ることができる。南北に細長く延びる尾根上、北から三の丸、本丸、二の丸。その周囲に小規模な郭がある。石垣も随分であるが、高いものは現存してはあまり見られない。北方より眼下に、今道越（山中越）が一望できる。



宇佐山城跡はNHKの鉄塔が目印



宇佐山城データ／元亀元年（1570）～
城主／森可成、明智光秀



●宇佐山城縄張り
(注)城跡への山道は整備されていません。ご注意ください。

堅田城

「信長軍の生存者はわずか4名、死力を尽くした湖上の激闘」

元亀元年九月、浅井・朝倉連合軍は湖西を南下し、坂本に駐留する。延暦寺もこの連合軍に呼応し、織田信長と對峙していた。両者の膠着状態が続く中、堅田の一部土家が信長に与し、堅田城に籠っており、こへ信長の武将である野井政尚等も加わっていた。そして十月、反信長の勢力は堅田城に押し寄せ、坂本はほぼ主だつた。武將が討たれる。その後浅井・朝倉連合軍と信長の相撃が成立している。

また元亀二年の比叡山城き討ち後、淺井部は織田信長の支配元となるころとなるが、最後まで反信長として抵抗する勢力が残っていた。彼らが拠点としたのが今堅田城で、元亀四年には、明智光秀からの活躍で落城している。

「江戸時代、幕府の直轄領として栄えた、堅田藩陣屋跡」

江戸時代、堅田藩の陣屋が所在し、湖島の里として栄えていた。堅田の地形は、掘割が巡る天然の要害となつているが、堅田城がこにあったかは定かでない。江戸時代になって、堅田藩が誕生すると、湖岸に陣屋が設けられる。陣屋については絵図が残り、南は伊豆神社北は堅田港西は、瑞壽寺東は琵琶湖に面し、本堅田に現存する石造りの大橋に当時を偲ぶことができる。



湖岸部には、今も随所に掘割が見られる。

坂本城ゆかりの地を訪ねる

日吉大社

古事記に登場する古社。織田信長の焼き討ちで境内が全焼、死後の天正十四年（1586年）に西本宮本殿（国宝）が再建された。信長存命中は表立つたことが出来ず、織田家臣の浅野長政はは内密に材木を寄付して、現在の在り約40社の社殿群が建ち並ぶ。

滋賀院門跡

天海大僧正が京都・北白川の法勝寺を移転したものとされる。江戸時代末まで天台座主の居所であった。穴太衆積み石積みと白壁をめぐらせた門のほか、江戸時代初期・小堀遠州の作定とされる国指定名勝庭園や狩野派の襖絵が鑑賞できる。

盛安寺

創建は不明だが、戦国時代に越前朝倉氏の家臣である杉若盛安が再興し、自分の名を付けたと伝えられる。桃山御殿の異名をとる客殿、聖来迎図を表現したという江戸時代の庭園、明智光秀の陣太鼓などがある。

07-5758009
07-5758002

【電車でのアクセス】

- JR大阪駅……新快速で約40分
- JR三ノ宮駅……新快速で1時間
- JR名古屋駅……新幹線(のぞみ)で約35分
- JR東京駅……新幹線(のぞみ)で約2時間20分
- JR博多駅……新幹線(のぞみ)で約2時間50分
- 京阪三条駅……京地下鉄のりかえで約22分



古都おとおつ観光ボランティアガイドの会

大津市の魅力を地元ボランティアガイドがご案内。
料金 2,000円 (比叡山延暦寺は3,000円)
原則10日前までのお申込みが必要。
お問合せは下記の協会まで
<http://www.otsu.or.jp/information/archives/197>

発行・観光のお問合せ/公社)びわ湖大津観光協会

〒520-0037 滋賀県大津市都府町2番3号市民文化会館内
TEL: 077-528-2772 FAX: 077-521-7330
URL: <http://www.otsu.or.jp>

- 協力／大津市歴史博物館・大津市埋蔵文化センター・滋賀県立図書館
- 参考／ふるさと大津歴史文庫2大津の城 五版(発行:大津市)
近江歴史探訪マップ3 織田信長、危機一髪 高島七領と元亀争乱 (発行:滋賀県教育委員会事務局文化財保護課)
信長戦国近江 (発行:大津市歴史博物館)
大津 歴史と文化 (発行:大津市)
近江歴史探訪マップ5 おとおつ湖都古都歴史散策 (発行:大津市歴史博物館)
近江のお城46選 (発行:滋賀県教育委員会)

